

令和6年度「地質の日」 経済産業省特別展示開催報告

須田 好¹・中村 佳博²・宍倉 正展¹・斎藤 眞¹・小松原 純子¹

1. はじめに

産業技術総合研究所(以下、産総研)地質調査総合センター(以下、GSJ)は、2007年に制定された「地質の日」(5月10日)を記念し、経済産業省本館1階ロビーにおいて2008年度から特別展示を行っている。2024年度は、火山防災対策強化のために文部科学省に火山調査研究推進本部(以下、火山本部)が設置されたことを受け、「火山列島に生きる」と題して2024年5月8日(水)～6月3日(月)の期間で展示を行った(第1図)。展示では、パネルや動画コンテンツ、岩石の実物標本を用いて、活火山の地質調査に基づくGSJの研究成果について分かりやすく紹介した(写真1)。また、展示期間中にGSJ職員による現地説明会を開催



写真1 経済産業省本館1階ロビーにおける特別展示の全体写真。



第1図 経済産業省特別展示の告知ポスター。噴煙が立ち上る桜島火山の写真を背景に、本展示のテーマである「火山との共存」、「火山の脅威と恩恵」をイメージしたポスターを作成した。

した。本展示の概要やパネルデータ等は、GSJウェブサイトの「地質の日」経済産業省特別企画ページから閲覧することができる(https://www.gsj.jp/chishitunohi_meti/2024/index.html 閲覧日:2024年7月2日)。

2. 展示内容

15枚のパネル展示では、火山に関する基礎知識、GSJの研究成果物(活火山の地質図、大規模火砕流分布図、ウェブデータベース)、過去の噴火事例、火山の恵みや火山防災に関わるGSJの取り組みについて解説した。「3次元で理解する溶岩流(富士山を例に)」と題したパネルでは、富士火山地質図を3次元加工した立体模型を展示した。地質図模型の上にそれと一致するように作られた3次元地形図と透明のプラスチック製カバーを重ね合わせ、壁掛けカレンダーのようにめくれる設計にしてパネルボードから吊り下げた(写真2A, 2B)。現地説明会では、説明者が赤い水性ペンを使って透明カバーの上から溶岩の流れる方向を描きながら、富士山の噴火について解説した(写真2C)。

1 産総研 地質調査総合センター連携推進室

2 産総研 地質調査総合センター研究企画室

キーワード: 地質の日, 5月10日, 経済産業省, 火山, パネル展示

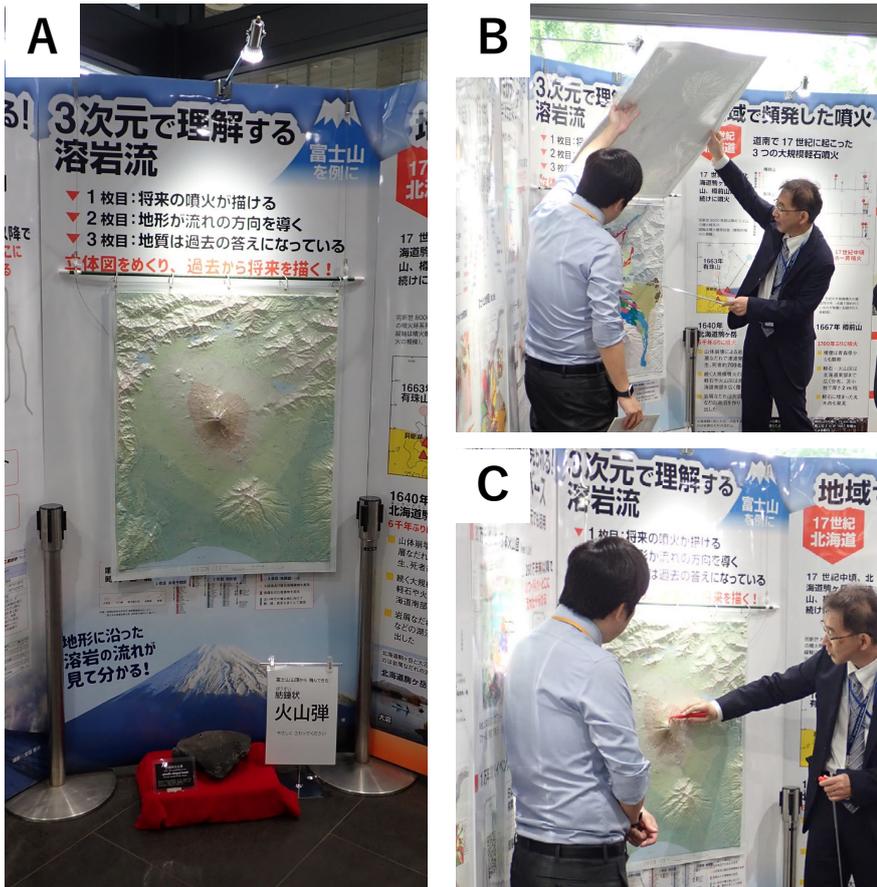


写真2 富士火山地質図. 地形図の立体模型。(A) 実物展示の様子, (B) 下から富士火山地質図, 地形図, 透明プラスチック製カバーの順に重ね, めくられるように加工して展示した。(C) 水性ペンで透明カバーの上に溶岩の流れを描きながら説明している様子。

パネル展示に関連して、富士山の火山弾（地質標本館登録標本：GSJ R81937）と福徳岡ノ場の軽石の実物標本展示も行った（写真3）。岩石標本の大きさがちょうど同じくらいだったこともあり、密度の違いを分かりやすく体感できると現地説明会の参加者から好評であった。

デジタルサイネージでは、GSJの活断層・火山研究部門から提供いただいた伊豆大島1986年噴火、雲仙普賢岳1991年噴火、霧島新燃岳2011年噴火、西之島2014年噴火、御嶽山2014年噴火の記録映像を10分弱に編集し、音声と共に投影した。

3. 「火山列島に生きる」パネル展示の現地説明会

展示期間中の5月16日（木）と5月23日（木）に経済産業省関係者を対象として、活断層・火山研究部門の石塚吉浩副研究部門長による現地説明会が開催された。石塚副部門長は、GSJの火山研究についてパネルを用いて説明し、参加者はその周りを取り囲むようにして聞いていた（写真4）。説明会当日は近年刊行された大規模火砕流分布図や火山地質図を用意し、参加者に実物を手に取って見てもらった。展示中の岩石標本も実際に持ってもらい、感触や重みを体感してもらっ

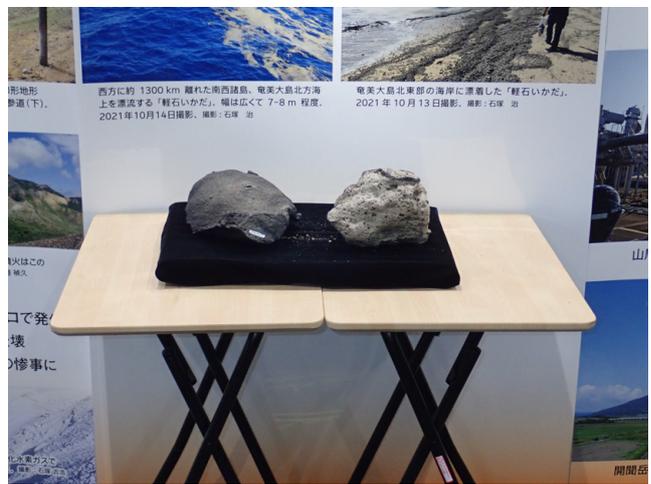


写真3 岩石の実物標本展示. 富士山頂で採取された紡錘状火山弾（直径25 cm）（左）と福徳岡ノ場の軽石（右）。

た。富士山の火山弾と福徳岡ノ場の軽石の重さの違いに思わず声を上げていた参加者も多かった。質疑応答の時間では、参加者から「次に噴火しそうな活火山はどこか?」、「関西や四国に火山がないのはなぜか?」、「噴火の抑制や制御はできるのか?」といった様々な質問がなされ、石塚副部門長が専門家として丁寧に回答した。

2回目の現地説明会の開催日である5月23日（木）には、



写真4 パネル展示の現地説明会。5月23日に行われた経済産業省職員向けの説明会の様子。

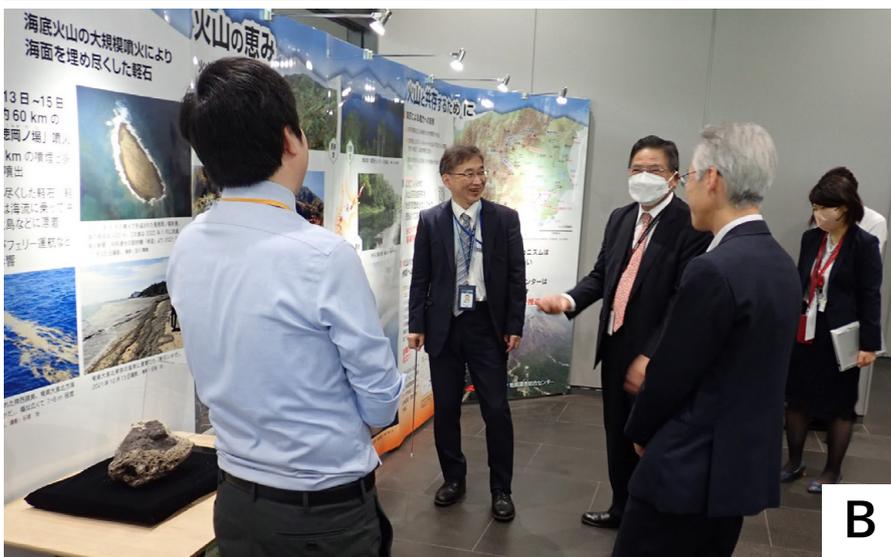


写真5 石村理事長と恒藤理事へのパネル展示説明。(A) 石村理事長と恒藤理事に説明する伊藤総合センター長補佐とそれをサポートするGSJ職員。(B) 和やかな雰囲気で行われた質疑応答の様子。

産総研の石村和彦理事長と恒藤 晃理事もパネル展示会場を訪問した(写真5)。パネルの説明は伊藤順一GSJ総合センター長補佐が担当し、石村理事長は質問も交えながら熱心に説明を聞いていた。特にプレートと火山との関係につ

いて関心を寄せて頂いたようで、質疑応答が盛り上がっていた。

また5月28日(火)には、産総研の自己評価検証委員の方々がパネル展示を訪問し、地質情報基盤センターの川邊

禎久氏によって展示内容の説明がなされた。

4. おわりに

本展示の開催にあたりまして、経済産業省産業技術環境局(現イノベーション・環境局)基準認証政策課の大谷一真課長補佐(当時)にお力添えを頂きましたことを深謝申し上げます。また、以下の多くの方々に多大なるご尽力を賜りました。

火山研究の専門家である石塚吉浩氏、川邊禎久氏、古川竜太氏、宝田晋治氏、下司信夫氏には本展示のパネル原案づくりに並々ならぬご支援とご協力を賜りました。中野俊氏、星住英夫氏、東宮昭彦氏、阪口圭一氏には写真および画像・動画データを、及川輝樹氏には福徳岡ノ場の軽石標本をご提供頂きました。都井美穂氏にはパネルレイアウト

・告知ポスターデザイン・GSJ ウェブページ用のバナーデザインを、川畑 晶氏にはポスターとパネルの印刷を、正根寺幸子氏にはウェブページ作成をご担当頂きました。伊藤順一氏、野田 篤氏には現地説明会にご尽力頂きました。長江敦子氏にはデジタルサイネージ用の動画作成を、川畑史子氏には研究関連普及出版物・成果発表DBの登録を、利光誠一氏には立体模型の展示準備にご協力頂きました。

以上の皆様に心より感謝申し上げます。

SUDA Konomi, NAKAMURA Yoshihiro, SHISHIKURA Masanobu, SAITO Makoto and KOMATSUBARA Junko (2024) Report on "Geology Day" Special Exhibition 2024 at METI.

(受付：2024年7月2日)